

かとうぜきかいらんぼん 可動堰回覧板

平成22年12月1日号 (No.65)
国土交通省北陸地方整備局
信濃川河川事務所大河津出張所
TEL 0256-97-2121
E-mail shinano@hrr.mlit.go.jp

回覧

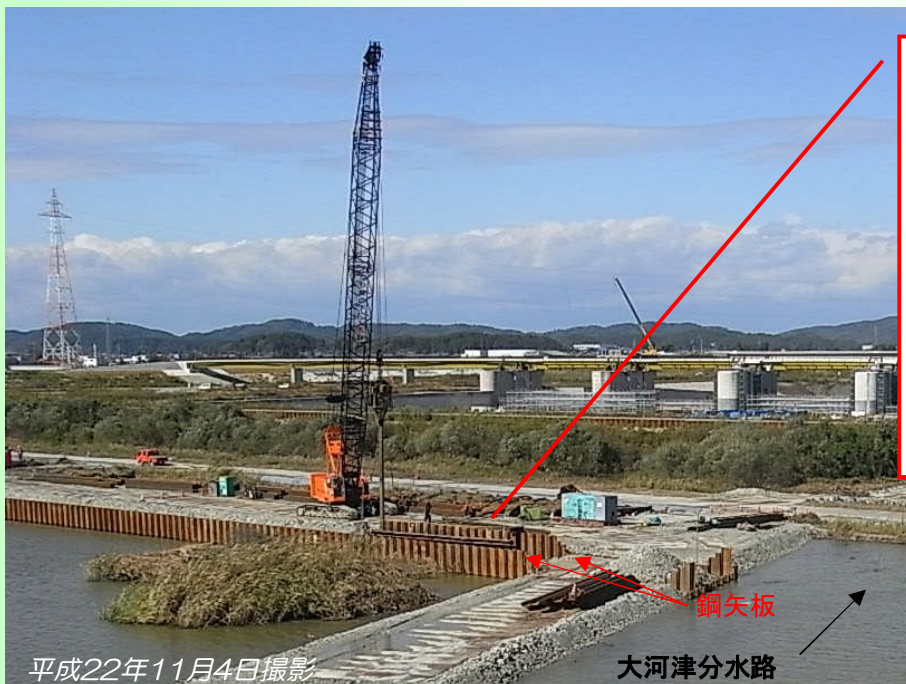
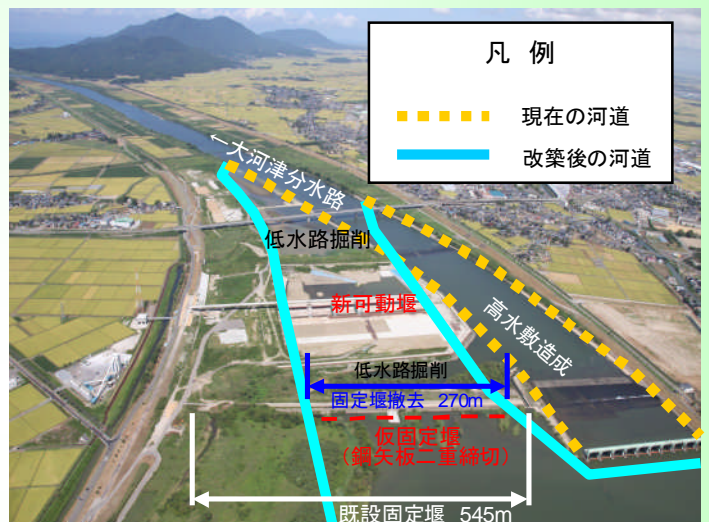
今回は、大河津可動堰改築の固定堰撤去の準備、ゲートの搬入等についてお知らせします。

固定堰の撤去を行うための準備をしています。

大河津分水固定堰は、可動堰の左岸側に造られた幅545mのコンクリート製の堰です。通常時は可動堰と併せて河川水をせき止めて洗堰から新潟市をはじめとする信濃川下流域へ毎秒270m³の水を流しています。この水は、生活用水、かんがい用水、工業用水などに使われています。固定堰本体部は大正11年の大河津分水路通水時に完成しており、80年以上経過した現在も当時のままの姿で運用しています。

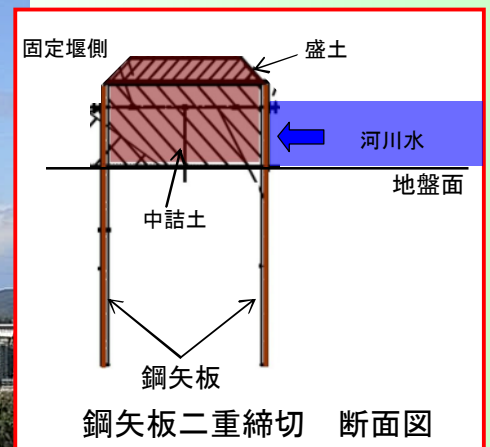
大河津可動堰改築事業では、新可動堰の上下流を新たに低水路とするための掘削を行っているところです。この掘削範囲に入っている幅270mの部分について撤去する計画となっています。

固定堰の撤去については、現在の堰の機能を維持しながら取り壊す必要があるため、まず直上流に仮締切を兼ねた仮固定堰（鋼矢板二重締切）を設置します。現在、この仮固定堰を設置する工事を行っており、固定堰の撤去については今月中旬より開始し来年の5月頃を目途に完了する予定です。



平成22年11月4日撮影

鋼矢板打ち込み状況



鋼矢板二重締切とは、矢板を二重にして固定堰を撤去する時や低水路を掘削する時に河川水が入ってこないようにするための仮設の構造物です。

ゲートの搬入が始まっています

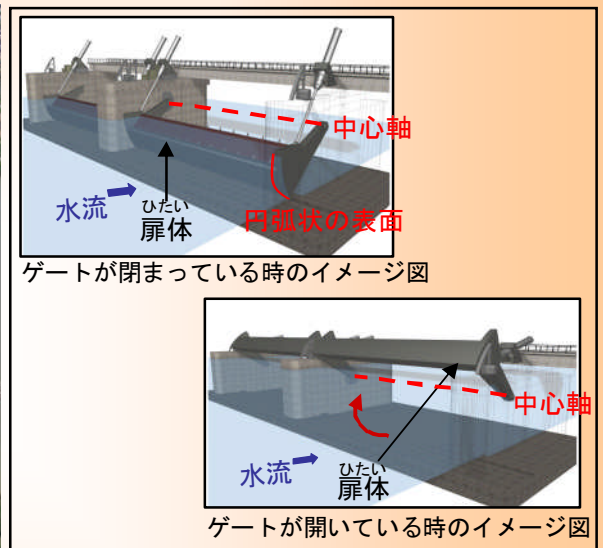
新可動堰のゲートは、景観、構造、維持管理や経済性などを総合的に検討しラジアルゲート※1形式を採用しています。この形式は、ダムや放流口などによく使われますが、河川の堰では珍しい形式で、本可動堰へ設置する約40mのゲートは、日本で最大のラジアルゲートとなります。

現場では、10月から平成23年5月頃までの間、6門あるラジアルゲートの据付を順次行うこととしています。

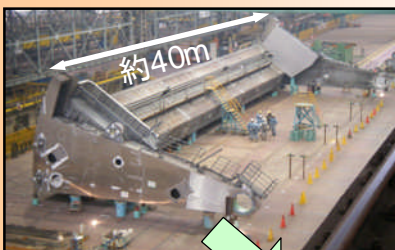
現在は、工場で寸法値等进行检查したゲートの扉体（ひたい）※2を現場まで搬入し、随時クレーンで吊り上げて組み立てている最中です。

※1 表面が円弧状で、その曲線の中心を軸として回転させることで開閉するゲートのことです。

※2 扉体とは川の水を直接受け止める部分で、上下することで水を流したり、水を止めたりします。



ラジアルゲートの仕組み



工場での仮組立状況
現場へはゲートが大きいため分解して搬入します。

堰柱間に架台を設置し、クレーンで吊り上げて組み立てます



工場から出発するために部材の積込作業を行っています



現場に到着！！

大河津可動堰情報館ホームページから、毎月1日には可動堰回覧板の最新号をご覧ください。また、バックナンバーも合わせてご覧ください。アドレスは「<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeki/>」です。

『可動堰なんでも電話』を開設し、みなさんからのご意見・ご質問などをお待ちしております。

0258-32-3134 (平日 AM9:00~PM4:00)

工事や河川に関することはなんでも大河津出張所へ Tel 0256-97-2121(建設監督官在所)

大河津出張所 : 大河津分水全般に関する工事監督・維持管理等

建設監督官(可動堰改築担当): 大河津可動堰改築事業に関する工事監督等

信濃川河川事務所
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/>

大河津可動堰情報館
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeki/>

信濃川大河津資料館
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/index.html>